

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2001-131015
(P2001-131015A)

(43) 公開日 平成13年5月15日 (2001.5.15)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード* (参考)
A 6 1 K 7/00		A 6 1 K 7/00	F
			J
			N
7/02		7/02	A
7/025		7/025	
審査請求 有 請求項の数20 O L (全 8 頁) 最終頁に続く			

(21) 出願番号	特願2000-338063 (P2000-338063)	(71) 出願人	391023932 ロレアル LOREAL フランス国パリ, リュ ロワイヤル 14
(22) 出願日	平成12年11月6日 (2000.11.6)	(72) 発明者	ラルカ・ローラン フランス・94320・ティエ・リュ・デ・ゼ グランティエール・35
(31) 優先権主張番号	9 9 1 3 9 9 0	(74) 代理人	100064908 弁理士 志賀 正武 (外7名)
(32) 優先日	平成11年11月8日 (1999.11.8)		
(33) 優先権主張国	フランス (F R)		

(54) 【発明の名称】 糖を含む、局所適用のための組成物及びその化粧的使用

(57) 【要約】

【課題】 糖及び／又は糖誘導体を含み、皮膚にベタツキ感を付与しない局所適用の組成物を提供すること。

【解決手段】 組成物中に、少なくとも一部が架橋されたオルガノポリシロキサンエラストマーの水性懸濁液を導入する。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 生理学的に許容される媒体中に、少なくとも一の水性相と、少なくとも、一の糖及び／又は一の糖誘導体と、少なくとも一部が架橋されたオルガノポリシロキサンエラストマーの粒子の水性懸濁液とを含んだ組成物であって、当該懸濁液が、当該組成物の水性相内で存在する組成物。

【請求項2】 前記のオルガノポリシロキサンエラストマーが、触媒の存在下で、少なくとも、
一のオルガノポリシロキサン (i) であって、一分子当たり二つのビニル基を、シリコン鎖上の α , ω 位に含むもの；及び

一のオルガノシロキサン (i i) であって、一分子当たりケイ素原子に結合した水素原子を少なくとも一有するものの付加反応及び架橋反応により得られることを特徴とする請求項1に記載の組成物。

【請求項3】 前記のオルガノポリシロキサン (i) が、ポリジメチルシロキサンから選択されることを特徴とする請求項2に記載の組成物。

【請求項4】 前記のオルガノポリシロキサン (i) が、 α , ω -ジメチルビニルポリジメチルシロキサンであることを特徴とする請求項2又は3に記載の組成物。

【請求項5】 前記のオルガノポリシロキサン粒子の水性懸濁液が、以下の工程：

(a) 前記のオルガノポリシロキサン (i) 及び前記のオルガノシロキサン (i i) を混合する工程；

(b) 乳化剤を含む水性相を、工程 (a) の混合物へ添加する工程；

(c) 水性相及び当該混合物を乳化する工程；

(d) 工程 (c) のエマルジョンに温水を添加する工程；

(e) エマルジョン中にある、オルガノポリシロキサン (i) 及びオルガノシロキサン (i i) を白金触媒存在下で重合する工程；により得られることを特徴とする請求項2乃至4の何れか一項に記載の組成物。

【請求項6】 前記の工程 (c) が、非イオン性乳化剤の存在下で行われることを特徴とする請求項5に記載の組成物。

【請求項7】 前記のオルガノシロキサン粒子が、0.1乃至500 μm の範囲のサイズを有することを特徴とする請求項1乃至6の何れか一項に記載の組成物。

【請求項8】 前記のオルガノポリシロキサン粒子が、80以下の硬度を呈することを特徴とする請求項1乃至7の何れか一項に記載の組成物。

【請求項9】 前記のオルガノシロキサン粒子が、活性剤の量において、当該組成物の全重量に対して0.1乃至30重量%の範囲で存在することを特徴とする請求項1乃至8の何れか一項に記載の組成物。

【請求項10】 前記の糖が、スクロース、グルコース、ガラクトース、リボース、フコース、トレハロース、

ス、マルトース、フルクトース、マンノース、アラビノース、キシロース、ラクトース、これらのアルキル化誘導体、これらを含む化合物、及びこれらの混合物から選択されることを特徴とする請求項1乃至9の何れか一項に記載の組成物。

【請求項11】 前記の糖の誘導体が、糖脂肪エステルであって、適宜オキシアルキレン化又はポリグリセロール化されたもの、糖脂肪エーテル、又はこれらの混合物より選択されることを特徴とする請求項1乃至10の何れか一項に記載の組成物。

【請求項12】 前記の糖の誘導体が、直鎖状又は分枝状、及び飽和又は不飽和の C_{12} 乃至 C_{22} の脂肪酸と、スクロース、マルトース、グルコース、フルクトース、マンノース、ガラクトース、アラビノース、キシロース、ラクトース、トレハロース、又はメチルグルコースとのエステル、 C_8 — C_{22} の脂肪アルコールと、グルコース、マルトース、スクロース、又はフルクトースとのエーテル、及び C_{14} — C_{22} 脂肪アルコールと、メチルグルコースとのエーテル、並びにこれらの混合物より選択されることを特徴とする請求項1乃至11の何れか一項に記載の組成物。

【請求項13】 前記の糖及び／又は糖の誘導体の量が、組成物の全重量に対して、0.1乃至20重量%の範囲にあることを特徴とする請求項1乃至12の何れか一項に記載の組成物。

【請求項14】 O/W型又はW/O型のエマルジョンの形態で提供されることを特徴とする請求項1乃至13の何れか一項に記載の組成物。

【請求項15】 油性相が、組成物の全重量の1乃至50%を占めることを特徴とする請求項1乃至14の何れか一項に記載の組成物。

【請求項16】 化粧品を構成することを特徴とする請求項1乃至15の何れか一項に記載の組成物。

【請求項17】 皮膚、唇、及び／又は毛髪を処置、保護、ケア、メイクアップ除去、及び／又はクリーニングするための、請求項1乃至16の何れか一項に記載の組成物の化粧品の使用。

【請求項18】 請求項1乃至15の何れか一項に記載の組成物を、皮膚、毛髪、及び／又は唇に適用することを特徴とする、皮膚、毛髪、及び／又は唇の化粧品の処置方法。

【請求項19】 乾燥肌、及び／又は乾燥した唇、及び／又は敏感肌をケアするための組成物の製造における、請求項1乃至16の何れか一項に記載の組成物の使用。

【請求項20】 少なくとも、一の糖及び／又は一の糖誘導体を含む組成物中における、この糖及び／又は糖誘導体に起因するベタツキ感を除去するための、少なくとも一部が架橋された固体オルガノポリシロキサンエラストマーの粒子の水性懸濁液の使用。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、糖及び／又は糖の誘導体、及び少なくとも一部が架橋されたオルガノポリシロキサンエラストマーの粒子の水性懸濁液を含む組成物に関する。本発明はまた、この組成物の使用、特に化粧的使用であって、皮膚、粘膜、眼、及び／又は毛髪をケア、クリーニング、及び／又はメークアップ除去するためのものに関する。本発明はまた、少なくとも、一の糖及び／又は一の糖誘導体を含む組成物における、この糖又は糖誘導体に起因するベタツキ感を除去するための、オルガノポリシロキサンの粒子の水性懸濁液の使用に関する。

【0002】

【従来の技術】糖又は糖の誘導体を現在の化粧料中に導入して、使用中におけるより良好な心地よさ（ソフトさ、エモリエンス（emolience）等）に寄与することは、通常実施されていることであるが、それはこれらの化合物が特にソフトさ及び製品のより良好な許容性に貢献するという事実によるものである。従って糖誘導体界面活性剤は、通常の界面活性剤に比べてよりソフトであり、より刺激がない。更に糖には良好な保湿性があるため、従ってモイスタライザーとして化粧料中に導入される。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、糖及びその誘導体は、それを含む組成物にベタツキ感を与えるといった不利益を呈する。従って、局所適用の組成物、特に化粧料であって、糖及び／又は糖誘導体を含み、皮膚にベタツキ感を付与しないものの必要性が存在する。

【0004】

【課題を解決するための手段】驚くべきことに本発明者らは、少なくとも一部が架橋されたオルガノポリシロキサンエラストマーの水性懸濁液を導入することにより、糖及び／又は糖の誘導体を含む組成物が皮膚に与えるベタツキ感を抑制することが可能であることを見いだした。

【0005】資料EP-A-545, 002、及びWO-A-97/32561、及びUS-A-5, 266, 321には明らかに、オルガノポリシロキサンエラストマーの粒子を含む化粧料であって、更に糖のエステルをも含むものが開示されている。しかしながらこれらの資料中で開示されているオルガノポリシロキサンエラストマー粒子は、油性のゲルの形態、特にシリコーンゲルの形態をとり、その中で粒子が膨張しているものであるのに対し、一方本発明により使用される粒子は水性媒体中に分散されているが、その中では膨張していない。上記の資料中に開示されている油性のゲルは、油性相中に導入されるが、水性相中には導入されず、この事実によりこれらは皮膚に適用した時に新鮮な感触を付与しない。更に、これらは糖又は糖の誘導体のベタツキ感を抑制す

るのには貢献せず、本発明において使用される水性懸濁液中の粒子とは対照的である。

【0006】

【発明の実施の形態】従って本発明は、生理学的に許容される媒体中に、少なくとも一の水相と、少なくとも、一の糖及び／又は一の糖誘導体と、少なくとも一部が架橋されたオルガノポリシロキサンエラストマーの粒子の水性懸濁液とを含んだ組成物であって、当該懸濁液が、組成物の水性相内で存在する組成物に関する。「生理学的に許容される」という表現は、ヒトの、皮膚、眼、及びケラチン繊維に適合する媒体を意味するものと理解される。更に「糖」という用語は、本願においては、アルデヒド又はケトンの官能基とともに又はそれらなしでアルコール性官能基を数個含む化合物であって、少なくとも4の炭素原子、好ましくは5乃至6の炭素原子を含むものを意味するものと理解される。

【0007】少なくとも一部が架橋されたオルガノポリシロキサンエラストマーの粒子が、水性懸濁液状にあり、従って水性相へ導入されるという事実により、得られる組成物は、仮にこれらの粒子が油性相中にある場合よりもより新鮮でより心地よい感触を有している。この新鮮さの効果は特に、油性相を含む組成物の場合、そして特に水中油（O/W）型又は油中水（W/O）型のエマルジョンの場合に、顕著である。更に上述したように、オルガノポリシロキサンエラストマーの粒子の水性懸濁液が組成物中に存在することにより、糖又は糖の誘導体によるベタツキ感を防止することが可能になる。従って本発明はまた、少なくとも、一の糖及び／又は一の糖誘導体を含む組成物における、この糖及び／又は糖誘導体に起因するベタツキ感を除去するための、少なくとも一部が架橋された固体オルガノポリシロキサンエラストマーの粒子の水性懸濁液の使用に関する。

【0008】「エラストマー」という用語は、柔軟で変形可能な物質であって、粘弾性を有し、具体的にはスポンジ状又はフレキシブルな球の軟度（consistency）を有するものを意味すると理解される。その弾性係数は、この物質が変形に耐性を有するものであって、限られた伸縮性しか有さないものである。この物質は、伸ばされた後に、元の形態に戻ることが可能である。このエラストマーは、高分子量のポリマー鎖からなり、その流動性は架橋点の均一なネットワークにより制限されている。

【0009】本発明の組成物中のオルガノポリシロキサンエラストマーは、皮膚を乾燥させず、良好な化粧特性、具体的にはソフトさやマット感に貢献する。これらのエラストマーのため、適用時に心地よく、よく伸び、ソフトで、触ってもべた付かず、脂っぽくない組成物となる。本発明のオルガノポリシロキサンエラストマーは、一部又は全部が架橋されていて、三次元構造を有する。

【0010】本発明のエラストマーは、水に分散され、

三次元構造を有するオルガノポリシロキサンエラストマーを含む乳化済ゲルの形態で提供される。粒子の分散液（又は懸濁液）は均一である。これらのエラストマーは具体的には、出願JP-A-10/175816に開示されている架橋済ポリマーより選択することができる。本願によれば、これらは触媒、具体的には白金タイプのもので存在下で、少なくとも、

- (a) - のオルガノシロキサン (i) であって、一分子当たり二つのビニル基を、シリコーン鎖上の α , ω 位に含むもの；及び

- (b) - のオルガノシロキサン (ii) であって、一分子当たりケイ素原子に結合した水素原子を少なくとも一有するもの

の付加反応及び架橋反応により得られる。

【0011】具体的には、前記オルガノポリシロキサン (i) は、ポリジメチルシロキサンより選択され、より具体的には α - ω -ジメチルビニルポリジメチルシロキサンである。本発明の組成物中で使用されるオルガノポリシロキサンエラストマー粒子の水性懸濁液は、具体的には以下の工程：

(a) 前記のオルガノポリシロキサン (i) 及び前記のオルガノシロキサン (ii) を混合する工程；

(b) 乳化剤を含む水性相を、工程 (a) の混合物へ添加する工程；

(c) 水性相及び当該混合物を乳化する工程；

(d) 工程 (c) のエマルジョンに温水を添加する工程；

(e) エマルジョン中にある、オルガノポリシロキサン (i) 及びオルガノシロキサン (ii) を白金触媒存在下で重合する工程；により得られる。好ましくは工程

(c) は、非イオン性乳化剤の存在下で行われる。この方法においては、水は有益には約40乃至60°Cの温度で添加される。工程 (e) の後、得られる粒子を乾燥し、トラップした水をそれより全部又は一部蒸発させることも可能である。

【0012】オルガノポリシロキサンは、室温でShore Aデュロメーター (ASTM標準D2240による) により、又は日本法 (JIS-A) により測定可能な硬度を有する固形の変形性粒子の形態をとる。この硬度は、このために調製されるエラストマー性ブロック上で、次のようにして測定することができる：オルガノポリシロキサン (i) と、オルガノシロキサン (ii) とを混合する；当該混合物より空気を除去する；100°Cのオーブン中で30分間モールド化及び加硫する；室温まで冷却し、硬度を測定する。相対的密度も、このエラストマーブロックで測定する。具体的には、Shore硬度は80以下、より好ましくは65未満である。本発明の組成物のオルガノポリシロキサンは、例えばDow Corning Electric社よりBY 29-122及びBY 29-119の名で販売されるものである。これらの商業製品の混合物も使用すること

ができる。製品のBY 29-122のエラストマーのブロックは、硬度7を呈し、製品BY 29-122は硬度30を呈する。相対的な密度は、0.97乃至0.98である。BY 29-122及びBY 29-199という名の懸濁液は、懸濁液の全重量に対して、約63重量%のオルガノポリシロキサンエラストマー粒子（従って約63%の活性物質）を含む。具体的には、オルガノポリシロキサンエラストマー粒子（活性物質として）は、0.1乃至500 μ m、より好ましくは3乃至200 μ mの範囲のサイズを有する。これらの粒子は球状、平坦状、又は無定形とすることができ、好ましくは球状である。

【0013】上述の方法において述べたように、これらのオルガノポリシロキサン粒子は、水中で安定に分散されるために、一以上の、非イオン性、カチオン性、又はアニオン性の乳化剤であってHLB（親水性-親油性バランス）が8以上のものとともに組み合わせて使用することができる。水性懸濁液中における乳化剤の比率は好ましくは、オルガノポリシロキサンエラストマーの水性懸濁液の100重量部に対して、0.1乃至20重量部、より好ましくは0.5乃至10重量部である（資料JP-A-10/175816の記載を参照）。更にこれらのオルガノポリシロキサンエラストマー粒子は、水性懸濁液中において、脂肪性物質、具体的には油、例えば資料JP-A-10/175816中に開示されているもの、室温で固体であるロウ又はゴム、動物、植物、鉱物起源、又は合成のペースト状脂肪性物質、又はこれらの混合物、及びこの資料中に開示されているものなどの無機の粉末と組み合わせて使用することができる。オルガノポリシロキサンエラストマー粒子は好ましくは、本発明の組成物中において、組成物の全重量に対して活性物質が例えば0.1乃至30重量%、好ましくは0.5乃至20重量%の範囲の量で存在する。

【0014】本発明の組成物中において使用することが可能な糖としては、例えばスクロース、グルコース、ガラクトース、リボース、フコース、トレハロース、マルトース、フルクトース、マンノース、アラビノース、キシロース、ラクトース、これらの誘導体、特にはそのアルキル化誘導体、例えばメチル化誘導体、例えばメチルグルコース、並びに一以上の糖を含む化合物、そしてこれらの混合物を挙げることができる。糖又は糖の混合物を含む化合物としては、例えばはちみつ等の天然化合物、例えばSolabia社からFucogel 1000の名で販売される製品 (CTFA名：Biosaccharide gum-1) などのポリマー、フコース、ガラクトース、及びガラクトン酸を含むポリマーを挙げることができる。本発明の組成物中において使用することができる糖の誘導体としては具体的には、糖脂肪エステルであって、適宜オキシアルキレン化（オキシエチレン化及び／又はオキシプロピレン化）又はポリグリセロール化されたもの、及び糖脂肪エーテルを挙げることができる。これらの化合物は特に、乳化

性界面活性剤として使用できる。

【0015】脂肪酸及び糖のエステルであって、本発明の組成物中で使用が可能なものは、具体的には、直鎖状又は分枝状、及び飽和又は不飽和の C_{12} 乃至 C_{22} 脂肪酸と、スクロース、マルトース、グルコース、フルクトース、マンノース、ガラクトース、アラビノース、キシロース、ラクトース、トレハロース、又はメチルグルコースとの、エステル又はエステル混合物を含む群より選択することができる。これらのエステルは好ましくはモノ-、ジ-、トリ-及びテトラエステル、ポリエステル、及びこれらの混合物より選択されるであろう。これらのエステルは具体的には、ステアレート、ベヘナート、ココアート、アラキドナート、パルミテート、ミリステート、ラウレート、カルプレート (carprate)、オレエート、ラウレート、及びこれらの混合物より選択することができる。

【0016】スクロースエステルが好ましくは使用される。スクロースエステルとしては例えば、スクロース=ココアート、スクロース=モノオクタノエート、スクロース=モノデカノエート、スクロース=モノ-、又はジ-ラウレート、スクロース=モノミリステート、スクロース=モノ-、又はジ-パルミテート、スクロース=モノ-、及びジステアレート、スクロース=モノ-、ジ-、又はトリ-オレエート、スクロース=モノ-、又はジリノレート、例えばスクロースのペンタオレエートエステル、ヘキサオレエートエステル、ヘプタオレエートエステル、又はオクトオレエートエステル等のスクロース=ポリエステル、例えばスクロース=パルミテート/ステアレート等の混合エステルを挙げることができる。

【0017】脂肪酸とスクロースとの、エステル又はエステル混合物の例としては、Crodesta社よりF160、F140、F110、F90、F70、SL40の名で販売されているものであって、それぞれ、スクロース=パルミテート/ステアレートの、73%モノエステルと27%ジ-、及びトリエステル、61%モノエステルと39%ジ-、トリ-、及びテトラエステル、52%モノエステルと48%のジ-、トリ-、及びテトラエステル、45%のモノエステルと55%のジ-、トリ-、及びテトラエステル、39%のモノエステルと61%のジ-、トリ-、及びテトラエステル、又はスクロース=モノラウレートであるものを挙げることができる。Mitsubishi社よりRyoto Sugarエステルの名で販売されるもの、例えばスクロース=ベヘネートの20%モノエステル、80%ジ-、トリ-、及びポリエステルに対応したB370も使用することができる。Goldschmidt社よりTegosoft PSEの名で販売される、スクロース=モノ-、及びジ-パルミテート/ステアレートも挙げることができる。これらの種々の製品の混合物も使用することができる。

【0018】糖エステルは、糖に由来しない別の化合物との混合物とすることもできるが、例えばソルビタン=

ステアレートとスクロース=ココアートとの混合物であって、ICI社からArlatone 2121の名で販売されるものを挙げることができる。他の糖エステルとしては例えば、グルコース=トリオレエート、ガラクトース=ジ-、トリ-、テトラ-、又はペンタオレエート、アラビノース=ジ-、トリ-、又はテトラリノレート、或いはキシロース=ジ-、トリ-、又はテトラリノレートを挙げることができる。

【0019】脂肪酸とメチルグルコースのエステル又はエステルの混合物の例としては、メチルグルコースとポリリグリセロール-3のジステアレートであって、Goldschmidt社よりTegocare 450の名で販売されるものを挙げることができる。グルコース又はマルトースのモノエステルとしては、例えばメチルO-ヘキサデカノイル-6-D-グルコシド、及びO-ヘキサデカノイル-6-D-マルトースを挙げることができる。脂肪酸と糖とのオキシエチレン化エステルの例としては、オキシエチレン化(20EO)メチルグルコース=セスキステアレート、例えばAmerchol社からGlucamate SSE-20の名で販売されている製品をあげることができる。

【0020】脂肪アルコールと糖とのエーテルであって、本発明の組成物中で界面活性剤として使用できるものは具体的には、 C_8 - C_{22} 脂肪アルコールと、グルコース、マルトース、スクロース、又はフルクトースとのエーテル又はエーテル混合物、及び C_{14} - C_{22} 脂肪アルコールと、メチルグルコースとのエーテル又はエーテル混合物を含む群より選択することができる。これらは具体的にはアルキルポリグルコシドである。当該糖エーテルの脂肪単位を形成する C_8 - C_{22} 又は C_{14} - C_{22} 脂肪アルコールは、飽和又は不飽和の直鎖状アルキル鎖であって、それぞれ8乃至22、又は14乃至22の炭素原子を含むものを含んでいる。このエーテルの脂肪単位は具体的には、デシル、セチル、ベヘニル、アラキジル、ステアリル、パルミチル、ミリスチル、ラウリル、カプリル、又はヘキサデカニルの単位、及びこれらの混合物、例えばセテアリルより選択することができる。

【0021】脂肪アルコールと糖とのエーテルの例としては、例えばデシルグルコシドやラウリルグルコシド等のアルキルポリグルコシド、例えばHenkel社よりそれぞれPlantaren 2000、及びPlantaren 1200の名で販売されるもの、セトステアリルグルコシドであって、適宜、セトステアリルアルコールと混合されたもの、例えばSeppic社よりMontanov 68の名で販売されるもの、Goldschmidt社からTegocareCG90の名で販売されるもの、そしてHenkel社からEmulgade KE3302の名で販売されるもの、そしてアラキジルグルコシド、例えばアラキジルアルコールとベヘニルアルコールとの混合物の形態をとるもの、そしてアラキジルグルコシドであって、Seppic社からMontanov 202の名で販売されるものを挙げることができる。HLB (親水性-親油性バランス) が7未満の

アルキルポリグルコシドであって、特にW/Oエマルジョン中で使用できるもの、例えばイソステアリルグルコシドであって、適宜イソステアリルアルコールとの混合物であるもの、例えばSeppic社からMontanov W018の名で販売されるもの等、そしてオレイルグルコシドであって、適宜オレイルアルコールとの混合物であり、Seppic社から販売されるものも挙げることができる。本発明の特定の態様によれば、上に定義したアルキルポリグルコシドと、対応する脂肪アルコールとの混合物は、自己乳化性組成物の形態とすることができるが、これは例えば資料WO-A-92/06778に開示されている。

【0022】糖又は糖の誘導体は、本発明の組成物の、水性相又は油性相へ導入することができる。糖は一般には水性相へ導入される。糖の誘導体については、その親水性又は親油性に応じて、水性相又は油性相へ導入される。本発明の組成物中での糖及び／又は糖の誘導体の量は、所望の目的に応じて大きく変動する。例えば組成物の全重量に対して、0.1乃至20重量%、好ましくは0.5乃至10重量%の範囲となりえる。

【0023】本発明の組成物は、特に局所的使用に適し、特に化粧料及び／又は皮膚科学的組成物を構成する。この組成物は、化粧及び皮膚科学の分野で使用される通常の薬学的投与量の何れかで提供され、特に適宜ゲル化水溶液、水性ゲル、分散液、水性相を油性相に分散することにより得られる(O/W)か、又は逆に得られる(W/O)エマルジョン、又は三重エマルジョン(W/O/W又はO/W/O)の形態をとることができる。これらはまた、誘導化された(vectorized)形態、例えばナノカプセル、リポソーム、ナノエマルジョン又はオレオソームの形態とすることもできる。これらの組成物は、通常の方法により調製される。

【0024】本発明の好ましい態様によれば、この組成物はO/W又はW/Oエマルジョンの形態をとり、好ましくはO/Wエマルジョンの形態である。組成物がエマルジョンである場合、後者は通常は少なくとも一の油と、適宜適切な乳化剤であって、具体的には糖の誘導体であるものを含んでいる。エマルジョンの組成物中に含まれている油性相の性質は重要ではなく、従ってこれは何れの脂肪性物質からなってもよく、具体的には化粧及び皮膚科学分野において通常使用される油であればよい。本発明のエマルジョン中において使用できる油の中では、具体的には、例えば植物油(アンニン油、ホホバ油、アボカド油、ゴマ油、サンフラワー油、トウモロコシ油、ダイズ油、サフラワー油、グレープシード油、植物ペルヒドロスクワレンやカライトバターの液体画分)、鉱物油(ワセリン、ジオクチルシクロヘキサンや、イソヘキサデカン等のイソパラフィン)、合成油(カプリル酸/カプリン酸=トリグリセリド、イソプロピル=ミリステート、セテアリル=オクタノエート、ポリイソブチレン、エチルヘキシル=パルミテートや、ア

ルキルベンゾエート)、揮発性シリコーン油(シクロメチコーン、例えばシクロヘキサメチコーン)や、非揮発性シリコーン油、そしてフッ化油を挙げることができる。油性相中に存在することが可能な他の脂肪性物質は、例えばステアリル酸等の脂肪酸、ステアリルアルコール等の脂肪アルコールや、ロウである。

【0025】当該エマルジョン中の油性相は、エマルジョンの全重量に対して、例えば1乃至50、より好ましくは5乃至40重量%を占めることができる。当該エマルジョンは、少なくとも一の乳化剤であって、油/水の界面を安定化することが可能なものを含むことができる。この乳化剤は、糖誘導体の乳化剤より選択することができるが、両性、アニオン性、カチオン性、又は非イオン性の界面活性剤とすることもでき、単独又は混合物で使用することができる。これらの乳化剤は、得ようとするエマルジョン(W/O又はO/W)により、適切に選択される。更に、既知のようにして本発明の組成物は、化粧及び皮膚科学分野における通常のアジュバントを含むことができるが、これらには例えば親水性又は新油性の活性剤、保存料、抗酸化剤、香料、充填剤、着色物質(顔料又は染料)、サンスクリーン、そして脂質小胞などがある。これらのアジュバントは、化粧及び皮膚科学分野において通常の比率において使用されるが、例えばエマルジョンの全重量に対して0.01乃至20%であり、それらはその性質に応じて、組成物の水性相内又は油性相内、或いは小胞内へ導入される。これらはその性質に応じて、組成物の一又はそれ以上の相内、或いは小胞内へ導入される。勿論、当業者らは本発明の組成物の有益な特性が、そのような添加により害されず、または、実質的に害されないように、このようなオプションの添加化合物及び／又はその量を選択するのに注意するであろう。

【0026】活性剤としては特に、サンスクリーン；ビタミンA(レチノール)、ビタミンC(アスコルビン酸)、ビタミンE(トコフェロール)、ビタミンB3(ナイアシンアミド)、ビタミンF及びビタミンD、そしてこれらの誘導体などのビタミン；リノール酸及びリノレン酸等の不飽和脂肪酸； α -ピサボロール；上述の油の中の、植物起源のバター、例えばラワンバターやカライトバター等であって、皮膚の脂質バリアーを再構成して乾燥肌の処置を可能にするもの；尿素；ルチン；酵素；天然抽出物、例えば緑茶、香油抽出物、タイム抽出物、プロシアニドールオリゴマー(PCO)(例えばサンザシPCO、マツPCO、及びブドウPCO)；酸類(例えばコージ酸、コーヒー酸、レチノイン酸及びその誘導体、又はベンゼン-1, 4-ジ-(3-メチリデン-10-カンフルスルホン酸)；又はカロテノイド(例えば α -、 β -、及び γ -カロテン、 β 、 ϕ -カロテン、 ξ -カロテン、 β 、 λ -カロテン、及びリコペン(Ψ 、 Ψ -カロテン)等のカロテン、並びにこれらの混合物を挙げるこ

とができる。

【0027】得ることを望む組成物の流動性に応じて、一以上のゲル化剤、例えばクレー、ポリサッカリドゴム及びこれらの誘導体（ザンサンゴム）、カルボキシビニルポリマーもしくはカルボマーや、ポリアクリルアミド及びアクリルアミドのコポリマー、例えばSeppic社よりSebigel 305の名で販売されているもの、及びHoechst社よりHostacerin AMPSの名で販売されているもの（CTFA名：ポリアクリルジメチルタウラミドアンモニウム）等を、これに添加することができる。これらのゲル化剤は一般には、当該組成物の全重量の0.1乃至10%、好ましくは0.1乃至5%、より好ましくは0.1乃至3%の範囲の濃度において使用される。

【0028】本発明の組成物において使用することができる充填剤としては、例えばポリアミド粒子、具体的にはAtochem社によりOrgasolの名で販売されるもの；ポリエチレン粉末；アクリル酸コポリマーベースの微小球（microsphere）（例えばエチレングリコール＝ジメタクリレート／ラウリルメタクリレートコポリマーであって、Dow Corning社よりPolytrapの名で販売されるもの）；膨張剤粉末（例えば中空微小球、具体的にはKemanord Plast社によりExpancelの商標、又はMatsumoto社によりMicropearl F 80 EDの商標で販売されている微小球）；天然有機物質より形成される粉末（例えばトウモロコシ、コムギや、イネのデンプンであって、架橋されていてもされていなくてもよいもの（例えば無水オクテニルコハク酸で架橋されたデンプンの粉末であって、National Starch社よりDry-Floの名で販売されるもの））；シリコーン樹脂の微小ビーズ、例えばToshiba Silicone社からTospearlの名で販売されるものを挙げることができる。

【0029】本発明の主題である組成物は、具体的には皮膚、唇、及び毛髪（頭皮を含む）についての数多くの化粧的処置、具体的には皮膚、唇、及び／又は毛髪の処置、保護、ケア、メイクアップ除去及び／又はクリーニングにおいて適用される。これらはまた、乾燥肌、及び／又は乾燥した唇、及び／又は敏感肌の処置にも適用される。本発明の組成物は、例えば顔用のケア製品、メイクアップ除去製品、及び／又はクレンジング製品であって、クリーム又は乳液の形態をとるものとして使用することができる。従って、本発明の主題はまた、皮膚、唇、及び／又は毛髪の、処置、保護、ケア、メイクアップ除去、及び／又はクリーニングのための、上述の組成物の化粧的使用でもある。本発明の主題はまた、皮膚（頭皮を含む）、毛髪、及び／又は唇の化粧的処置方法であって、上述の組成物が皮膚、毛髪、及び／又は唇に適用されることを特徴とするものである。本発明の主題はまた、乾燥肌、及び／又は乾燥した唇、及び／又は敏感肌のケアを目的とした組成物の製造用の、上述の組成物の使用でもある。

【0030】

【実施例】以下に示す組成物の実施例は、非限定的な例示としてのものである。表示の量は、特に言及しないかぎり重量%である。

（実施例1）

水中油型エマルジョン

水性相：

グリセロール 5%

BY29-122

（63%の活性物質を含む） 5%

保存料 0.3%

ハチミツ 0.5%

水 100%まで

油性相：

スクロース＝パルミテート／ステアレート

（Goldschmidt社のTegosoft PSE） 3%

ステアリン酸 1%

ステアリルアルコール 3%

流動パラフィン 10%

植物ペルヒドロスクワレン 10%

シクロヘキサメチコーン 5%

ゲル化剤

Sepigel 305 1%

（方法）二つの相を別個に70°Cまで加熱し、次に油性相を水性相中に、攪拌しながら分散させた。次に、ゲル化剤を約60°Cの温度で添加した。なめらかで、非常にリッチで、ソフトであり、また鎮静性のあるクリームが得られた。脂肪性物質が高含量であるにもかかわらず、このクリームはべた付かず、脂っぽくもなかった。

【0031】（実施例2）

油中水型エマルジョン

油性相：

セチルジメチコーンコポリオール（乳化剤） 1.5%

ポリグリセリル-4＝イソステアレート（共乳化剤）

0.5%

イソヘキサデカン 5%

シクロヘキサメチコーン 10%

ペルヒドロスクワレン 10.5%

充填剤：

Expancel 551 0.5%

架橋済デンプン（Dry-Flo） 2%

水性相：

グリセロール 5%

硫酸マグネシウム 0.5%

Fucogel 1000（Solabia社） 3%

保存料 0.4%

BY29-122（活性物質63%を含む） 5%

水 100%まで

（方法）充填剤を油性相中に分散させ、次に、得られた混合物中において、激しく攪拌しながら水性相を非常に

ゆっくりと分散させた。乾燥肌のケアに適する、透明なクリームが得られた。

【0032】（実施例3）

油中水型エマルジョン

油性相：

イソステアリルグルコシド／イソステアリルアルコール
（15／85）

（即ち、0.45％のアルキルポリグルコシド活性物質） 3％

アンニン油 8％

シクロヘキサメチコーン 8％

ロウ 2％

水性相：

グリセロール 5％

硫酸マグネシウム 0.5％

トレハロース 1％

BY29-122（活性物質63％を含む） 5％

保存料 0.4％

水 100％まで

（方法）油性相及び水性相を別個に75℃まで加熱し、次に、激しく攪拌しながら水性相を油性相中へ分散させてエマルジョンを調製した。このようにして得られたクリームは、適用時になめらかでソフトであり、リッチである。これは容易に浸透して、すぐに鎮静的滋養供給効果に貢献する。これは乾燥肌及び敏感肌のケアに特に適する。

フロントページの続き

(51)Int. Cl. 7

識別記号

F I

テーマコード（参考）

A 6 1 K 7/06

A 6 1 K 7/06

7/48

7/48

7/50

7/50